

○保育課程年間総括・保護者アンケート・職員の自己評価・第三者委員との話し合いをもとに、事業計画に沿って園評価を行う。

〈子どもの全面発達の保障〉

- ・4,5月にロタウイルス、1,2月にインフルエンザが流行したが、感染拡大を防ぐために保護者へもその都度保健だより等でお知らせするとともに衛生管理の徹底や保育活動の工夫を行ってきた。
- ・各年齢の発達をおさえながら、生活づくりや身体づくり、心を育てることを大切に保育してきた。さまざまな行事や日々の保育活動を通して子どもたちが一つ一つ達成感を積み重ね心も身体も大きく成長したことが、年度末の生活発表会やお別れ遠足での子どもたちの姿から感じられた。安心感や自己肯定感が生活や遊び等への意欲の土台となること、子どもの思いや本当の願いを保育者が言葉で受け止め心を立ち直らせる関わりを丁寧にしていくこと、大人との信頼関係を土台にしながら仲間の中で育っていくこと等を、保育実践や子どもの姿を通して確認できた。日々の生活の積み重ねを土台にしながら、各年齢の保育で押さえるべきことをしっかり話し合い確認し合って今後の保育に繋げていく。
- ・野菜作りや料理活動、栄養の話など食育にも積極的に取り組んできた。食のつまずき（咀嚼、偏食等）については、食事時の配慮だけでなく活動の充実にも心がけ生活全体を視野に入れ保護者とも連携をとりすすめてきた。また、咀嚼については全身運動の発達とのつながりを学びながら手立てを考えてきた。

〈家庭との連携〉

- ・子どもを真ん中に、子どもにとってどうかという視点で保護者と向き合い、必要に応じて懇談もしながら、子どもたちの成長を共に喜び合ったり悩みを共有し合ってきた。連絡帳やクラス懇談会、朝夕の送迎だけでなく、普段の何気ない会話の積み重ねを大事にしながら、信頼関係づくりを丁寧に心掛けてきた。保護者から寄せられた意見には全職員で話し合いながら真摯に受け止め向き合ってきた。
- ・親子遠足や夏祭り、運動会、ひなまつり会、保護者会事業等を通して、クラスや園全体で保護者とのつながりや信頼関係を深めたり、子どもも大人もみんなでき響き合ったりすることができた。我が子だけではなくどのクラスの子どもたちもあたたかく見守る雰囲気を感じられ、保護者の園に対するあたたかさを感じている。これからも子どもと保護者の思いに寄り添いながら、実践を通して保育を伝え共通理解を深められるようにしていく。

〈地域の子育て支援の拠点〉

- ・子育て支援センターでは、来園した子どもだけでなく親にも一緒に遊びや経験を共有・共感してもらおうと、日々の活動を工夫しながら親子の関わりを支援してきた。また、子育て相談が増えてきている中では、子育て支援研修会に参加したり、市の保健師と連携をとったりしながら対応してきた。
- ・病後児保育は甲府圏域の6市町（甲府市・甲斐市・笛吹市・中央市・昭和町・南アルプス市）で協定を締結し、今年度より利用できる要件が拡大された。利用状況としてはやはりニーズは多く、今年度は256件の利用があった。
- ・子育て支援も病後児保育も保育理念を土台に“さくらんぼらしさ”を大事にした活動や事業が展開され、地域の多くの親子に支持されているのは嬉しい。

#### 〈職員の資質向上・民主的集団づくり〉

- ・職員集会や共立福祉会研修、園内研修をはじめ、合研、保育プラザ研修、全障研発達セミナー、キャリアアップ研修等、みんなで学習研修に努めてきた。学んだことを実践に繋げ、保育の中でしっかり手ごたえを感じながら、学びを自分のものにしていきたい。
- ・自己評価では、上半期は新しい職員集団や子どもとの信頼関係を築いていくまでは悩みながらの保育だったり余裕のなさが感じられたりしたが、それでもみんな前向きで自分の反省や課題としっかり向き合い努力する姿勢が見られ、下半期になると子どもたちの成長を共に確かめ合う中で保育がより充実してきて、悩みや課題はあるけれど保育の楽しさを感じながら更なる課題を見出す等、より前向きな姿勢が感じられた。

#### 〈保育園の社会的責任〉

- ・平成 30 年度から新保育所保育指針が施行されるということで、研修等には積極的に参加してきた。職員集会において、指針の改定とこれからの保育実践で大切にすることを全職員で学べたことは良かった。基本理念や子ども像をしっかりとおさえながら新指針をどのように捉え保育していくか、また全職員で考え合っていく。
- ・保育制度や情勢について、“保護者をどう巻き込み一緒に取り組んでいくか”という毎年の課題について年度初めに全職員で話し合い、思いを一つにしたことで、今年度は合研にも署名集会にも大勢の保護者や子どもたちと共に大型バスで参加することができた。保護者との共感・共有が何よりの力になることを感じた。保育署名も 1225 筆集める事ができた。
- ・保護者アンケートは 100%の回収率で、9 割近くの保護者が園に対して信頼や理解を寄せてくれていることがわかった。信頼を寄せているからこそその厳しい意見も多く、その期待に応えられるよう、改善点や努力すべき点は真摯に受け止めながら、園の方針や保育理念を丁寧に伝える努力をし、日々の保育や子どもの成長を通してわかってもらえるような保育実践をしていく。(詳細は別紙)
- ・保護者アンケートだけでなく園に寄せられた要望や苦情については第三者委員とともに考え合ってきた。第三者委員からは、共立福祉会や園の保育理念をきちんと伝えながらも保護者理解の姿勢を持ち、丁寧に信頼関係を築いていくことで保護者の理解も深まりより良い保育に繋がることや、職員の努力や成長が感じられること、もっと保育に文化を取り入れ豊かにして欲しい等の助言や励ましの言葉をいただいた。

#### 〈地域・専門機関との連携〉

- ・小学校や療育機関との連携、実習や職場体験の受け入れ、地域の人との交流や子育てに関わる団体との連携等、積極的に取り組んできた。療育機関との連携においては、家庭も含めた三者で連携をとり、子どもの姿をいろいろな視点で捉えながら成長や発達を確認し合い共通理解のもとで手立てを考え支援できるようにしていきたい。また「県保育課題等検討委員会」や「市子ども・子育て会議」、「支援ネットワーク会議」、「南アルプス市の子育てを考える会」、「山梨保育運動連絡会」等、さまざまな関係機関や団体との連携の中で情勢や制度についての学習や検討を行ってきた。市子育て支援課との懇談も行い、保育現場や子育て環境の実態や課題を共有できたことは良かった。